

## 「JENESYS2019」第二十四回中国教育関係者代表団（招へいプログラム） （対象国：中国、テーマ：教育）

### 1. プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した「JENESYS2019」第二十四回中国教育関係者代表団計 59 名が、12 月 3 日から 12 月 7 日までの 4 泊 5 日の日程で来日しました（団長：支建軍（シ・ケンゲン）北京市人民対外友好協会 副秘書長）。一行は東京、大阪を訪問。各種教育機関などを訪問・視察し、日本の教育関係者と交流したほか、各地で歴史・文化・科学技術に関する参観を通し、包括的な対日理解を深めました。一行は、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、報告会で帰国後のアクション・プラン（活動計画）について、代表者が発表しました。

【訪問地】 東京都、大阪府

### 2. 日程

#### 12 月 3 日（火）

羽田空港から入国

【見学】 パナソニックセンター東京

【オリエンテーション】

【歓迎会】

#### 12 月 4 日（水）

【訪問・交流】 グループ 1：東京学芸大学附属国際中等教育学校、グループ 2：台東区立上野中学校

【講義聴講】 日本の初等中等教育制度に関する文部科学省ブリーフ

#### 12 月 5 日（木）

大阪へ移動

【見学】 大阪城、大阪歴史博物館

【文化体験】 温泉旅館宿泊

#### 12 月 6 日（金）

【訪問・交流】 グループ 1：大阪市立大空小学校、グループ 2：大阪市立日本橋小中一貫校

【交流】 大阪府教育庁との懇談会

【歓送報告会】 訪日成果・帰国後の活動計画発表

#### 12 月 7 日（土）

関西国際空港より出国

### 3. プログラム記録写真（訪問地：東京都、大阪府）



12月3日【見学】パナソニックセンター東京



12月3日【歓迎会】外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課 丸山 浩一 地域調整官による挨拶



12月4日【訪問・交流】東京学芸大学附属国際中等教育学校（グループ1）



12月4日【訪問・交流】東京学芸大学附属国際中等教育学校（グループ1）



12月4日【訪問・交流】台東区立上野中学校（グループ2）



12月4日【訪問・交流】台東区立上野中学校（グループ2）



12月4日【講義聴講】文部科学省ブリーフ



12月5日【見学】大阪城



12月5日【見学】大阪歴史博物館



12月6日【訪問・交流】大阪市立大空小学校  
(グループ1)



12月6日【訪問・交流】大阪市立大空小学校  
(グループ1)



12月6日【訪問・交流】大阪市立日本橋小中  
一貫校(グループ2)



12月6日【訪問・交流】大阪市立日本橋小中一貫校（グループ2）



12月6日【交流】大阪府教育庁との懇談会



12月6日 歓送報告会 支建軍団長による訪日活動総括

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

◆まず、日本の学校の人材育成目標は明確で実効性があり、スローガンを叫ぶだけで終わっていない。

第二に、日本の教育は学校だけではなく、全社会で人材育成の任務を担い、科学館や観光スポットも教育に好適な場所である。

第三に、生徒が自己形成・自己成長するよう励まし、限定した選択や規則を押し付けるのではなく、選択の空間を与え、生徒の主動性と創造性を最大限に発展させる。

第四に、日本の教室では、教師と生徒が打ち解けあって、みな平等に討論し、グループもお互い対等に交流していて、学習は味気ないものでも、ましてや苦痛なものでもないと感じられた。中国の教育は、往々にして成績を特別重視するが、日本では習慣の育成、人格や意志力の形成をより重視している。

第五に、日本はごみの分別がきちんと行われている。大切なのは、各自が自覚し、各自が行うようにすることなので、赤ちゃんのときから教育すること、そして一貫した教育、忍耐強く、意志を持った教育は特に学ぶべきだ。

他にも、日本の綺麗で整然としているところ、秩序が取れているところ、美しい環境、自己処理能力も、特に学ぶべきだ。

日本は、子供の健康やスポーツ鍛錬を格別重視していて、学校は生徒が身体を鍛えること

を奨励し、耐寒教育や体育の授業で子供たちが自分にチャレンジし、困難を克服する資質を育成している。

◆今回来日して、東京・大阪で日本の小中学校を見学し、文部科学省、大阪府教育庁のブリーフを拝聴して、間近で中日両国の文化、教育面での違いと共通点を理解することができた。

全体として、中日両国の教育分野はとても似ている。9年の義務教育、小学校6年、中学3年、高校3年、中日両国ともとても教育を重視している。数日の交流と見学で、日本の教育で印象深かったのは、日本の学校が生徒の身体的素養と労働教育を大変重視している点だ。体育の授業での生徒の運動強度が高い。大空小学校で児童が自分たちで昼食を運び、昼の休み時間に学校の公共エリアを掃除することなどは素晴らしいと思った。日本はどのように他人と交流するか、自分にチャレンジするかなど、資質教育を重視していると分かった。また、日本の各学校では災害教育を大変重視している！

◆5日間の訪日で、日本の悠久の歴史文化と先進的な教育理念についてさらに理解を深め、新たな認識を得ることができた。文部科学省のブリーフ、大阪府教育庁との懇談、また小中学校での見学、学習、すべてにおいて、日本が個性の尊重を提唱していることが最も印象深かった。人はみな平等で、すべての生徒を成長させようという教育理念。日本では生徒は学校で多くの成長の機会があり、点数だけで簡単に判断する評価システムとは異なっている。このような教育理念のもと、生徒はより多様化された、自分の特徴にあった成長を遂げることができるであろう。このような人を基本とした教育理念、また個々の教育者がこの理念のもと努力・探求していることを、私たちは是非学ぶべきだと思う。

また、日本の国民教育の面で、学校はとても重要で突出した役割を果たしていた。2つの例を挙げる。1つは、生徒の労働教育で、大阪市立大空小学校を訪問した際、生徒が自分たちで食事を運び、配り、給食後の昼休みに廊下を掃除しているのを見た。このような方法は、生徒に実践の中から労働によって素晴らしい生活が生み出されることを実感させるものである。もう1つの例は、ごみ分別と環境保護意識の教育が根付いていること。生徒と一緒に給食を食べた際、紙パック牛乳を飲み終えた後、ごみを紙パックとプラスチックストローの2種類に分けるなど廃棄容器の分別が大変細かいことを目にした。このような全国民に対して環境保護意識の教育が浸透しているところは、私たちは努めて学ぶべきだ。

◆今回の訪問で、幸運なことに東京学芸大学附属国際中等教育学校および大空小学校を深く理解することができ、収穫が多かった。東京学芸大学附属国際中等教育学校は、多様性や国際性のある、将来海外で活躍できる人材を育て、学校のカリキュラムは日本の教育課程だけでなく、IB課程を開設している。学校の英語による授業は非常に特色があり、一般の生徒、また英語能力が高い帰国子女の生徒にも適している。校長の一言が大変印象に残っている。「良い学校に合格するのは学習した結果であって、教育の目的ではない」。また、中一の帰国子女生徒が挨拶で、「中国は生徒の成績がすべてに関係してくるが、日本では良い学校を受験したければ塾があるので、学校では基礎教育を行うだけで、すべての生徒がそんなに勉強のプレッシャーを感じていない。個々の生徒は、みんな公平に扱われ、成績がすべてではない。みんなとても自信を持っている」と述べた。この理念は是非学ぶべきだし、深く考えるべきだ。

大空小学校の訪問で最も印象に残ったのは、この小学校のインクルーシブ教育である。体

育館で全校1～6年の全児童が大自然のような歌声を聞かせてくれ、とても感動した。最も感動したのは、子供たちが舞台から降りる際、知的障害や体の障害があるクラスメートを進んで助けているのを見て、心が震えるほど感動した！中国では障害のある子供は笑いにされるかもしれない。しかし、ここではすべての子供たちがお互いに助け合い、受け入れあっている。本当に敬服した！学校の教育理念にも、真のインクルーシブ教育の目標が見て取れた。ともに学び、ともに生きる、ともに成長する！大空小学校が生徒に定めた4つの理念、1.人を尊重する力（人を大切にできる力）2.考える力3.表現する力4.チャレンジする力を私たちは是非学ぶべきだ。小さな頃から、子供たちの受け入れる、責任を持つ、考える、役目を担うという良い習慣を育むことは、全人的成長の育成を具体的に表したものである。

今回の訪問視察は、本当に得るところが多かった。帰国後、きちんと総括し、振り返って考え、同僚に伝え、目にした良い理念を伝えていきたい！

◆来日前、日本の小学校はどんなだろうかと何回も想像した。アニメや日本のドラマみたいなかわいい制服やおいしい弁当の他に、日本のキャンパスはどんなだろう？小生徒は？また日本の先生はどんなだろう？

好奇心いっぱい、国立の国際学校と公立の学校を見学した。以前の私立の貴族的教育に抱いていた印象とは違い、日本の学校は全体的印象として、誠実で気取らず、校門に入ると最初に庭一面緑、そして、子供たちが落ち葉で覆われた運動場でグループになって思いのままに汗を流し、笑顔で迎えてくれた。感動の始まりだ。

#### 感動1、教師の笑顔

見学した学校は、基本は半日だったが、日本の教師の温かさと誠実さを感じ取るに十分であった。公立でも国立でも、子供たちと校長や教師との関係が非常に良い。教師が陰しい顔をする事は少なく、優しい笑顔で子供に接している。

#### 感動2、子供たちも自ら貢献する

子供たちは学校で昼食を食べる際、すべてを自分たちでやり、きちんと分担して、進んでごみを分別する。おいしい食事を味わうと同時に、労働と団結の意識を高める。

今回の旅は私にとって勉強になったし、さらに改めて考えさせられた。私たちはみな子供たちに何を与えられるか、どのように努力すればいいか考えなければならないと思う。

◆1. 東京学芸大学付属国際中等教育学校では、規範に沿った自主的な授業と教師が自身に厳しく働いていることがとても印象に残った。自主的に探究する授業や厳密なカリキュラム管理から、学校の教育従事者の本意と初志が感じられた。「多様で、異なる背景の人がすべて世界の舞台上で活躍できるよう育成する」というこの学校の教育理念は、学校のカリキュラム設定に最大限に現れていた。カリキュラムの中心であるIB課程がすべてにイニシアティブをとり、理念や目標の統一を実現していた。

2. 大阪市立大空小学校では、特別支援の生徒に対する管理方法がとてもユニークであった。それぞれの生徒を集団生活に融けこませ、一緒に学び、一緒に生活し、一緒に成長する。さまざまな方法で「すべての生徒の学習権を保障する学校をつくる」を本当に実現していた。学校のすべての活動に生徒が自ら関わり、自分たちでやり遂げて、労働と学習の過程で労働の大変さを体得している。また、集団の誇りとチーム力を感じた。「自分がされて嫌なことは人にしない」という理念は素晴らしい！

3. 文部科学省のブリーフを聞いて、東京や日本の規範に沿った、計画的な学科ごとの指導や改訂が印象に残った。学校教育の教育事業の一貫性と整合性を強く保障していた。同時に日本は教員資格の認定有効期限 10 年という政策を実施しているが、これは教師の個人のレベルアップや生涯学習を大いに促すことができる。

4. 大阪府教育庁のブリーフで、教育管理部门が学校をサポートし、協力し、学校の事業に明確な方向性を示しているなど学校教育事業をしっかり支援していることが感じられた。

◆ 1. 文部科学省のブリーフと大阪府教育庁との懇談会を通じて、日本の教育の現状をさらに理解することができた。①カリキュラムの基準の交付・実現・教科書の編集審査など中央政府は指導と監督に力を入れ、地方自治体は実行とイノベーションに力を入れている。②政府は教育へ精力を注ぐことと関心を重視している。さまざまな方法で、社会全体の教育に対する関心および教師の地位を高めている。

2. ブリーフと懇談会は民主的で、詳細な資料を準備し、ポイントを紹介して、質疑応答に多くの時間をかけた。日本の教育を理解したいと思う各人が、質疑応答によって答えを得ることができた。受け取った資料には現状の政策だけではなく、直面する問題やそれに対する対策も書かれており、振り返って考えることで、大胆に発展していこうという日本の教育の決意が見られた。

3. 2校の見学が深く印象に残った。校長が情熱的に職務に打ち込んでいることに感動した。教師の仕事量は大変多く、子供たちに関心を寄せ、教師と生徒の関係も和やかで、校内は美しく整理されていた。

◆ たったの数日だったが、感慨深かった。美しい桜は見ることができなかったが、楓で赤く染まった日本列島は絵のように美しく、深い緑のある隣国は以前とは全く違う印象を残した。この国は、礼儀正しく、綺麗に整っていて、秩序正しく、ずっと感動し通しだった。

上野中学校のカリキュラム設定は中国とは違っていて、クラブ活動は私たちも学ぶべきだ。クラスの生徒数は少なく（1クラス 40 名前後）、掃除や自分たちでの調理・被服製作など実践に力を入れている点も学ぶべきだ。日本の学校の運動場は土で、生徒に自然に触れさせるためだが、校舎にはちり一つない。

日本の衛生は、洗面所・バス・ごみ処理・教育礼節など多くの面で着実に行われていて、大げさではなく、数日間、衣類にはちり一つ着かなかつたし、どこを触ってもほこりがなく、住宅建設でも衛生が考慮されている。先進技術でのビル建設もエコが実現できる。この点も私たちは学ぶべきだ。

日本人は誰も暇にしていない。サービスしてくれる定年をずいぶん過ぎたお年寄りも自分ができる仕事を行っている。みんなが貢献し、謙虚で温かく、礼儀正しいというのは素晴らしい習慣だと感じた。

◆ 1. 子供の生活能力の育成がきちんと行われていることが、以下の面に現れていた。①子供が登校する際、父兄は送り迎えをせず、自分たちで歩いてまたは電車で登下校している。これは側面的に、日本は安全が保障されていることを表している。②学校には家庭科があり、子供に生活の基本的技能を教えている。③食育課程がきちんと行われている。④学校には専門の清掃員がおらず、「自分が使用した場所は自分で掃除する」という原則で、すべての先生、

生徒が放課後に一緒に清掃を行う。

2. 大阪の特別支援教育はきちんと行われている。学校で、学力または身体・心理的に集団の学習に加わるのが難しい生徒を見たが、特別支援学級の先生が専任で面倒を見て、指導している。日本の教育理念は「特別な支援が必要な人も、一般の人の中で普通の生活をおくるべき」で、本当に人を基本とした理念で深く印象に残った。

3. 日本人は礼儀正しく、綿密で原則を重んじ、日本の環境は綺麗で整っていて、静かで安全なことすべてが印象深かった。人口がこんなに多い国で国土の 2/3 の森林を保っているというのは素晴らしい。

4. 無人運転電車、地震防災の各対策など日本の社会の自動化・科学化は素晴らしい。

## 5. 受入れ側の感想

### ◆学校関係者

○本校教員との質疑応答では、沢山のご質問やご感想をいただきありがとうございました。本校にとっても中国教育関係者代表団の皆様をお迎えできて、とても良い経験ができました。

○来校された団員の方々が非常に熱心に、児童・生徒の作品をご覧になったり、質問される姿を拝見し、受け入れた私たちに元気をいただけたと思っております。また、生徒会の発表や挨拶を温かく見守っていただけたので、生徒たちがこの交流を通じて自信を持つことができました。本校には中国にルーツがある児童・生徒が複数いますが、中国に関して知らないことが沢山あることにも気づかせていただきましたので、今後の教育活動にも生かしていきたいと思えます。

### ◆自治体関係者

今回、代表団の先生方との交流で、教育に携わる者として、「子どものため」という熱い思いは万国共通であることを実感いたしました。また、意を同じくしながらも異なる視点や価値観にも触れることができ、我々も大いに刺激を受けました。短い時間ではありましたが、有意義な交流会となりました。

6. 参加者の対外発信

12月4日／社会人／Weibo	12月6日／社会人／Weibo
<div data-bbox="212 315 767 383">  <p>高小跳跳不高 12-4 22:57 来自 OPPO 随光而变R17</p> </div> <div data-bbox="651 315 767 371"> <p>3 阅读</p> </div> <div data-bbox="212 398 743 913"> <p>#JENESYS2019中国教育工作者代表团#很开心有机会参加代表团到日本考察，这里的美景让我仿佛置身于宫崎骏电影里。那片云，那个车站，都似曾相识。这个国家于我而言既熟悉又陌生，终于与这里的人近距离的接触，语言虽不通，却能深深地感受到同为教育人的热忱，也深深地感叹日本教育工作者对细节处的极致追求。永远忘不了台东区立上野中学孩子们天籁般的歌声，也永远忘不了可爱的上原校长🥰</p> </div> <div data-bbox="212 920 762 1223">  </div> <div data-bbox="244 1238 719 1274"> <p>转发 评论 赞</p> </div>	<div data-bbox="818 315 1166 371">  <p>张丽新一直很开心 2019-12-06 来自 iPhone客户端</p> </div> <div data-bbox="818 398 1374 618"> <p>#JENESYS2019中国教育工作者代表团#五天的交流活动即将结束，感谢日方的邀请及招待，一切都尽心细致。这次日本之行是独特的，不仅感受到日本教育的先进理念，更是两国之间的心与心的交流之旅。感谢安排，也感谢在活动中所有的遇见。日本，下次再见！📍日本·大阪</p> </div> <div data-bbox="818 667 1374 1205">  </div> <div data-bbox="818 1238 1038 1265"> <p>转发1 评论1 赞2</p> </div> <div data-bbox="818 1294 1358 1323"> <p>发表评论</p> </div>
<p>日本理解についての発信</p> <p>訪日できてうれしいです。ここの美しい景色はまるで宮崎駿の映画の世界に入ったかのよう。あの雲、あの駅、どこにも見覚えがある。この国のことを熟知していたようで分かっていなかった。やっとここの人と身近に接触でき、言葉は通じないが、同じ教育者の情熱を感じた。日本の教育関係者が精緻を極める姿勢に感嘆せずにはられない。上野中学校の子どもたちの心に響く歌声を忘れられないし、親しみやすい上原校長も忘れられない。</p>	<p>訪日活動についての発信</p> <p>五日間の訪日が終わりに近づこうとしている。日本側の招へいと受け入れに感謝。すべての手配が行き届いていた。今回は特色のある旅だった。日本の先進的な教育理念にも触れたし、両国間人々の心の交流もできた。滞在中すべての出会いに感謝！またの再会を楽しみ！</p>

## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

### グループ1



- ・校長に訪日報告をして、今回の交流で会得したことを分かち合う。
- ・学校の全体会で今回の訪日についての交流を行う。主に今回の見学・訪問で見たこと、感じたこと、日本の現在の教育について紹介し、多くの教職員に日本の教育の現状を理解してもらう。
- ・今回の訪日で知り合った友人と引き続き連絡を取り合い、中日友好協会が開催する日本関連活動に積極的に参加する。
- ・地元で日本関連活動が開催された時には、自分だけでなく友人を誘って積極的に参加する。
- ・SNSで日本での見聞を家族や友人と分かち合う。
- ・今回の訪日では考えるべき話題がたくさんあった。機会を見つけ、研究論文に活用し、真剣に研究する。
- ・身の回りの環境を改善することから始め、ごみの分別などの環境保護活動を始める。

### グループ2



- ・帰国後、父兄や同僚に今回の訪問の文化・環境・地理・教育・工業などの経験を伝え、日中両国の異なる点を比較して長所で短所を補い、ともに発展する。
- ・歴史・文化・経済などの日本の関連知識を学習し、日本文化についての理解を深める。
- ・日本の友人との連絡を頻繁にし、日中両国の文化交流を行い、多くの中日両国の人にお互いを理解し、友情を深めてもらう。
- ・教育面では、子供たちが自ら実践する能力に注目し、知識を保障した上で実践活動を展開して、自身の興味を見つけ、将来計画を立てるようにさせる。
- ・環境保護面では、生徒に環境保護や科学的なごみ処理を広め、教育する。
- ・同僚や父兄と写真を分かち合い、日本文化を理解してもらう。
- ・また日本を訪問する機会をつくり、日本の農村を見て回るか、農場に行って両国の違いを体験したい。